

## 第10節 環境と調和した農業の推進

農業の本来有する自然循環機能を発揮させつつ、環境に配慮した持続的な農業生産活動を推進するため、天敵昆虫（益虫）を利用した生物的防除などを中心としたIPM（総合的病害虫・雑草管理）の実践及び良質堆肥を用いた健全な土づくりを基本に、化学肥料や化学合成農薬の使用量をできるだけ少なくするなど環境と調和した農業を推進しています。

### 1 IPMの推進

産地に適合したIPM技術の確立と普及推進を展開するとともに、IPM実践者の育成及びIPMのPRを図っています。

- ① IPM研究会の設置と運営
- ② IPM実践指標（マニュアル）の策定（H24年度：31品目）
- ③ IPM実践指標に資する、IPM実証試験の実施（H24年度：16品目26箇所）
- ④ IPM情報ネットワーク（メールによる情報配信）の設置
- ⑤ IPMのPRキャラクターの設置

### 2 「環境と調和した農業」に対する産地への啓発活動の展開

「環境と調和した農業」に対する県・地域・市町村の推進体制の整備や生産者・消費者等への意識啓発を進めています。

- ① 研修会の開催
- ② ブロック別研修会の開催
- ③ パンフレットやホームページ等による啓発

### 3 家畜排せつ物等の良質堆肥化

耕種部門と連携した良質堆肥づくりを進めるとともに、環境汚染防止対策の推進に努めています。（表3-100、表3-101）

表3-100 県内の家畜排せつ物の処理状況（平成24年）（単位：千トン，%）

項目	放牧	堆肥化 処理 施設	焼却 施設	液肥化 処理 施設	浄化 処理 施設	外部処理		自作地 還元等	合計
						産廃処理 委託	堆肥 センター		
固形物	17	3,050	67	0	0	45	342	427	3,948
液状物	5	53	0	155	1,422	3	121	197	1,956
計	22	3,103	67	155	1,422	48	463	624	5,904
割合	0.4	52.6	1.1	2.6	24.1	0.8	7.8	10.6	100.0

表3-101 堆肥生産施設の整備状況（単位：カ所）

年度	H14まで	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	合計
施設数	355	53	45	21	11	24	15	16	12	24	18	594

### 4 健全な土づくりと適正な施肥の推進

作物に応じた良質堆肥の利用を基本として、土壌診断、施肥基準に基づく適正施肥の推進や土層改良の推進等に努めています。

- 耕種・畜産両部門の連携による良質堆肥の生産と利用推進
  - ・ 県良質堆肥生産利用推進協議会の設置（平成13年7月）
  - ・ 堆肥コンクールの開催

## 5 適正な農薬使用及び病虫害防除等の推進

「農薬使用の手引き」に基づく適正な農薬の使用及び防除の推進を図るとともに、病虫害発生予察情報（病虫害の発生動向）を定期的に提供しています。

## 6 持続性の高い農業生産方式の導入状況

「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づき、土づくり、化学肥料・化学合成農薬の使用低減に一体的に取り組むエコファーマーの確保・育成に努めています。（表3-102、表3-103）

**表3-102 エコファーマーの年次別認定の状況**（平成25年3月末現在）（単位：人）

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
認定数	1,272	1,313	395	495	446	388	186	277	189	117
累計	1,917	3,230	3,625	4,120	4,526	4,354	4,316	4,428	4,591	4,661

**表3-103 エコファーマーの部門別認定の状況**（平成25年3月末現在）（単位：人）

部門名	水稲	野菜	果樹	花き	工芸作物	いも類・その他	部門計
認定数	1,232	1,875	330	81	543	600	4,661

※2品目以上で認定の場合、面積の広い部門に入れている。

## 7 農業用廃プラスチック類の年度別処理状況

農業用廃プラスチック類の処理について、再生処理を基本とした適正処理を推進し、地域ぐるみでの回収体制の整備を進めています。（表3-104）

- ・ 県農業用廃プラスチック類適正処理推進協議会の設置（平成10年11月）
- ・ 県内全域に地域協議会の設置（平成11年6月）

**表3-104 農業用廃プラスチック類の処理状況**（単位：t，%）

調査年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
再生処理	2,882	3,165	3,229	3,363	3,594	3,559	4,210	4,416	4,403(76.1)
埋立処理	1,028	983	712	641	544	363	357	451	500(8.6)
焼却処理	88	132	108	114	62	23	24	28	33(0.6)
その他	1,267	1,238	1,565	1,518	1,023	988	1,096	910	849(14.7)
合計	5,265	5,518	5,615	5,636	5,223	4,933	5,687	5,805	5,785(100)

※年度は、前年7月～当年6月

## 8 特別栽培農産物等の生産支援

環境と調和した栽培方法を採用して農産物を生産する農業者を支援するため、平成4年に農林水産省が定めた「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に基づく慣行レベル（各地域で慣行的に行われている化学肥料の窒素成分の使用量及び化学合成農薬の使用回数）の設定等を行っています。

また、生産者の農業生産工程管理（GAP）を外部機関が審査・認証する「かごしまの農林水産物認証制度（K-GAP）」において、平成20年から化学肥料や化学合成農薬を慣行レベルより5割以上低減する基準を設定しており、生産者の取組を支援しています。

## 9 環境と調和した農業技術の研究開発と普及

化学合成農薬の使用低減を図る栽培技術や環境保全及び資源利活用に関する技術の開発等に努めています。

また、県農業開発総合センターで新たに開発された技術等については、現地で実証ほを設置するなど農業者への早期普及定着に向けて、現地の実態に的確に対応した普及指導活動を行っています。（表3-105）

**表3-105 現在取り組んでいる主な研究課題**

研究課題		実施試験場等
化学合成農薬の使用低減を図る栽培技術の開発	・臭化メチル全廃に対応したピーマン土壌病害虫防除技術の確立	農業開発総合センター 生産環境部，園芸作物部
	・かごしまマンゴーの銘柄確立に向けた高品質・安定生産技術の確立（天敵を用いた効果的な防除）	農業開発総合センター 果樹部
環境保全及び資源利活用に関する技術の開発	・農耕地からの温室効果ガス抑制対策技術の開発	農業開発総合センター 生産環境部
	・CO2削減のための茶の節電型防霜法の確立	農業開発総合センター 茶業部